

授業モデル

取組みの柱②：授業モデルの活用

“課題を設定し、課題を解決していくために自力解決や集団解決を行い、まとめる”といった「問題解決型の展開」になっていない授業が多いという本校の課題がある。

そこで、単元の進め方や本時の進め方を示した「授業モデル」を活用し授業を行えば、どの学級でも共通の問題解決型授業を展開できるのではないかと。特に、集団解決の場面において、学び合いが起こるような授業の展開を目指す。この授業モデルをもとに、授業をふりかえり、発問や自力解決・集団解決の在り方を探っていく。

1 時間の授業展開

学習過程	留意点と発問例
1 学習課題	<ul style="list-style-type: none">学習課題は疑問形で設定する。 「〇〇は□□に対しどのような思いを持っていたのだろうか？」 「どうして、〇〇は～をしたのか？」音読を行う。
2 集団解決	<ul style="list-style-type: none">場面の設定や人物の行動等を読み取る。 「〇〇はどのような人物か、わかるところを見つけましょう。」 「～のために、〇〇がした行動を見つけましょう。」 「〇〇と〇〇は、どんな違いがあるでしょうか。」
3 自力解決	<ul style="list-style-type: none">表現等に注目して、課題に関する読み取りを行う。 「この情景に、〇〇のどんな気持ちが表現されているのでしょうか。」 「この時、〇〇はなぜ～を行ったのでしょうか。」主な発問に対しては、自分の考えをノートに書く。
4 ペア学習	<ul style="list-style-type: none">全員が自分の考えを人に伝え、自分の考えを深める。
5 集団解決	<ul style="list-style-type: none">児童の考えの対比や類比を通して、読みを深める。 「これらの考えは、何が違いますか。」 「この二つの考えのどちらに賛成ですか。それはなぜですか。」 「これらの考えの共通点は何でしょう。」ゆさぶりをかけ、読みを深める。 「この言葉は必要でしょうか。」 「〇〇という意見があるが、私は××だと思う。みなさんはどちらに賛成ですか。」 「〇〇という意見があるが、それはどこからわかりますか。」
6 まとめ	<ul style="list-style-type: none">学習課題に対するまとめを、児童が自分の言葉でまとめる。

単元の展開（物語文）

学習過程	留意点
STEP 1 学習課題設定	<p>□題名読みを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題名を通して、どんな内容なのか、どんな物語が展開するのかを想像させる。(興味・関心) ・作者について知っていることがあれば、紹介してみる。図書室や学級文庫の本などの紹介をする。 <p>□全文通読を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者による範読を行う。 <p>□初発の感想を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「よく分からなかったこと」「考えてみたいこと」「不思議だったこと」「気に入ったところ」を書かせる。 ・初発の感想の共有を通して、学習課題を設定する。 <p>□単元を通した言語活動の確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元のゴールを意識させる。 <p>(例：作品紹介カードを作って、あらすじ、主題、おもしろさを紹介しよう)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習計画を立てて、見通しを持たせる。
STEP 2 全体読み	<p>□作品の設定やあらすじの読み取りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時、場所、登場人物、事件などの設定をつかませる。 ・作品の構成（起承転結）やあらすじをつかませる
STEP 3 たしかめ読み	<p>□場面毎の学習課題に沿って、読み取りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次のような点に目を向けながら、細部を読み取らせる。 <ul style="list-style-type: none"> 「視点」(誰の視点で書かれているか、視点がどう変化しているか) 「表現技法」(描写、比喩、繰り返し、擬音語等の効果、意味) 「中心人物の変化」(どう変化したか、変化にかかわった事件の意味) ・出来事の因果関係を読み取らせる。 <p>⇒「判断」(～に賛成か、反対か)や「比較」(二つはどう違うか、似ている点はどこか)を通して、細部を読み取らせる。叙述を根拠にして判断や比較を行わせる。</p>
STEP 4 まとめ読み	<p>□主題<物語を貫くテーマ、この物語を通して読者に訴えたかったこと>を読み取る。</p>
STEP 5 読解を活かした言語活動	<p>□読解を活かし、単元のまとめとしての言語活動を行う。(単元のゴール)</p>

単元の展開（説明文）

学習過程	留意点
STEP 1 学習課題設定	<p>□題名読みを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題名を通して、どんな内容なのか、どんな物語が展開するのかを想像させる。(興味・関心) ・作者について知っていることがあれば、紹介してみる。図書室や学級文庫の本などの紹介をする。 <p>□全文通読を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者による範読を行う。 <p>□初発の感想を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「よく分からなかったこと」「考えてみたいこと」「不思議だったこと」「気にいったところ」を書かせる。 ・初発の感想の共有を通して、学習課題を設定する。 <p>□単元を通した言語活動の確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元のゴールを意識させる。 (例：教材文の書き方を活用して、食べ物図鑑を作ろう) ・学習計画を立てて、見通しを持たせる。
STEP 2 全体読み	<p>□構成の読み取りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・序論（始め）、本論（中）、結論といった構成を考え、文章構成図を作成する。(この時点では間違ってもよい。学習を通して修正をしていく) ・問いと答えを見つける。
STEP 3 たしかめ読み	<p>□細部やまとまりを読み、筆者の意図をつかませる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次のような点に目を向けながら、細部を読み取らせる。 <ul style="list-style-type: none"> 「要点」(中心となる文を見つけ短くまとめる、形式段落の主語を考える) 「表現技法」(接続語、文末表現、指示語等の効果) 「文章構成」(問題提起とまとめの関係、事例と主張のつながり等) 「意図」(事例の工夫、説明の順序、題名の意味等) <p>を読み取らせる。</p> <p>⇒*「<u>判断</u>」(～に賛成か、反対か)や「<u>比較</u>」(二つはどう違うか、似ている点はどこか)を通して、細部を読み取らせる。<u>叙述を根拠に</u>して判断や比較を行わせる。</p> <p>*段落を抜いたり入れ替えたりした文章を提示するなど、<u>仕掛けを作り、意図を考えさせる。</u></p>
STEP 4 まとめ読み	<p>□再度文章構成図を書き、問い事例答えまとめのつながりをとらえさせる。</p> <p>□要旨をまとめ、要旨に対する自分の考えをまとめさせる。</p>
STEP 5 読解を活かした言語活動	<p>□読解を活かし、単元のまとめとしての言語活動を行う。(単元のゴール)</p>

